



概要

- 気候変動により大雨の頻度が増加すると、河川の水があふれて洪水被害が発生したり、地面への雨水の浸透や排水が十分でないことによる内水被害が発生したりすることが予想されます。また、土砂災害も発生しやすくなります。
- このような災害に備えるには、洪水、内水、土砂災害の被災想定区域や避難場所が示されたハザードマップを提供し、住民や事業者への周知を図ることが重要な対策の一つとなります。
- 風水害や豪雪、竜巻等の幅広い自然災害に対応した保険・共済等の活用を促進することも、気候変動による被害を最小化するための備えにつながります。

ハザードマップの提供(仙台市)



仙台市ウェブサイトの「せんだいくらしのマップ」では、洪水ハザードマップ、土砂災害危険地マップ、浸水履歴マップ等の地図情報を見ることができます。

あらゆる自然災害に対応した共済制度の活用(兵庫県)

兵庫県では、阪神・淡路大震災の教訓を踏まえ、地震、津波、風水害、豪雪、竜巻等あらゆる自然災害を対象とした共済制度「フェニックス共済」の加入を促進しています。気候変動への適応にもつながるものです。

 <p>地震・津波・風水害・豪雪・竜巻などあらゆる自然災害が対象です</p>	<p>地震保険 + フェニックス共済</p> <p>地震保険や他の共済に加入していても加入でき、給付が受けられます</p>	 <p>住宅の築年数や構造・規模等と関係なく、定額負担で定額給付です。</p>
---	---	--

出典:

・仙台市 せんだいくらしのマップ

<http://www2.wagmap.jp/sendacity/top/mapselectgroup.asp?mct=9>

・兵庫県フェニックス共済(兵庫県住宅再建共済制度)

<https://web.pref.hyogo.lg.jp/kk41/phoenixkyosai.html>